

対トーゴ共和国 国別開発協力方針

2019年9月

1. 当該国（地域）への開発協力のねらい

トーゴでは、水深の深い天然の良港であるロメ港を拠点に、ブルキナファソやニジェール、マリ等の内陸国へのゲートウェイとなっており、西アフリカ「成長の環」、アビジャンーラゴスハイウェイ等地域統合を目指すイニシアティブにおいて重要な位置を占めている。

トーゴでは、近年民主化が進展しており、2017年には西アフリカ諸国経済共同体（ECOWAS）議長国を務め、2018年から2019年まではアフリカ連合（AU）平和安全保障理事会の理事国を務める等、西アフリカ及び国際社会の平和と発展に積極的な貢献を行ってきている。同国の政治的・社会的な安定と経済の発展のための協力は、西アフリカ地域の平和と発展に資するものであり、我が国による支援の意義は大きい。

2. 我が国のODAの基本方針（大目標）：回廊開発を通じた持続的経済成長の促進と基礎的社会サービス強化を通じた貧困削減・格差是正

我が国は、トーゴ政府が2030年の中所得国入りを目指して作成した国家開発計画（PND¹）に基づき、ロメ港を域内のロジスティック・ハブとした西アフリカ地域の発展を促進すべく、西アフリカ「成長の環」を構成するトーゴの回廊の開発及び基礎的社会サービス拡充に資する協力を行い、持続的経済成長の促進及び貧困削減・格差是正を支援する。

3. 重点分野（中目標）

（1）回廊開発

トーゴ政府が整備を進めている「ロジスティックス回廊²」は、ロメ港を起点にしてトーゴを南北に縦断し、国内の生産・消費活動を先導するとともに、ブルキナファソ、マリ、ニジェールといった内陸国へのゲートウェイともなっている。また、同回廊はロメ港の東西に延びるアビジャンーラゴスハイウェイ構想とも連携しており、トーゴは同回廊を国土開発及び地域統合の最重要軸として位置づけているため、我が国は運輸・交通インフラの整備を中心に、成長産業の振興を含む同回廊の開発を支援する。

（2）基礎的社会サービス強化と格差是正への配慮

経済成長に伴う国内格差の拡大を防ぎ、包摂的な成長を実現すべく、回廊開発とあわせて社会サービスへのアクセス向上を支援する。

¹ Plan National de Développement 2018-2022

² ロメ港からブルキナファソとの国境サンカンセまでの667kmにわたる国道1号線及び重要な支線上の運輸・交通インフラ

4. 留意事項³

(1) 援助協調・官民連携の促進

回廊開発を中心としたトーゴの総合的な開発・整備を進めていく上では膨大な資金が必要となるため、西アフリカ経済通貨同盟（UEMOA）、他ドナー及び民間セクターと連携を図りつつ、優先事業の選定及び実施を行う。

(2) 治安面への配慮

国内情勢は比較的安定しているが、マリ、ブルキナファソ、ベナン等近隣国の情勢が域内情勢に影響を及ぼしうることに留意しつつ、案件の形成・実施にあたっては、関係者の安全確保に十分配慮する。

(了)

別紙： 事業展開計画

³ なお、当該国を対象として実施された過去の ODA 個別評価は次のとおり。
無償資金協力個別案件の評価（2018） 報告書掲載先：
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000496683.pdf>
<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/files/000496689.pdf>